



山王台だより7月号

令和3年6月30日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

言葉の力

副校長 三浦 達郎

梅雨明けが待ち遠しい季節になってまいりました。湿度も高くじめじめしていて、何となく気持ちも晴れない毎日ではないでしょうか？

そんな中で、とてもさわやかな気持ちになる出来事がありました。夕方、学校の前の坂を登っていると、向かいの公園で遊んでいた山王台小の子が、わざわざ道路のところまで出てきて、手を振りながら「副校長先生、さようなら。」と声をかけてくれました。私は、この言葉を聞いたときに、一気に疲れが吹き飛んで、とても幸せな気持ちになりました。



先日、ある新聞を読んでいましたら、「『窓ぎわのトットちゃん』刊行40年」という記事が目飛び込んできました。皆さんご存じかと思いますが、「窓際のトットちゃん」は黒柳徹子さんの自伝的物語で、20以上の言語に翻訳され、世界で累計2371万部を超えるそうです。記事には、多くの読者に読み継がれている理由として、「子どもの本来の姿を肯定してくれる。多くの読者にとって励みになった。」と書かれています。また、「その象徴が、トモエ学園の小林宗作校長が毎日トットちゃんに語り掛けた『君は、本当は、いい子なんだよ』という言葉だ。他の子どもと比べたり、社会の基準に押し込めたりせず、その子の存在自体を受け止めている。」とも述べています。（神奈川新聞6/7より）

今の黒柳さんの活躍を支えているのが、まさにこの「言葉の力」であると言えるのではないのでしょうか。

今、コロナ禍においては、マスクの着用により相手の表情が見えづらくなっていて、これまで以上にコミュニケーションが取りづらくなっています。だからこそ、私たちは、意識して、また意図的に言葉を発していく必要があるのではないのでしょうか。たった一言が、相手の気持ちを和ませたり、温かい気持ちにさせたり、お互いの理解を促すことにもつながります。特に、学校で働く私たち教職員は、心して子ども達に言葉をかけていきたいと思います。家庭や地域の皆さんも、少し肩の力をぬいて、子どもに対して、また大人同士の言葉によるコミュニケーションをこれまで以上に大事にしていただければ幸いです。